

東愛知新聞

発行所:東愛知新聞社 〒441-8016 豊橋市新栄町字鳥瞰62 電話0532(32)3111
ホームページ:http://www.higashiaichi.co.jp

【先勝】

早い動きで激戦模様

来春の県議選 豊橋市選挙区の展望

豊橋市議の坂柳泰光氏が来春の統一地方選で実施される県議選・豊橋市選挙区への出馬を名乗り出たことで、同選挙区(定数5)の「噂」(うわさ)の群像「が」出そろった。予想される主な顔ぶれは計8氏。具体的な名前が「？」のケースはあるものの、「8の5」だ。統一地方選まで1年弱。同選挙区の動きは「異例の早さ」かつ「激戦模様」で始まろうとしている。

出馬が予想されている主な候補予定者は丹羽洋章(自民)、浅井由崇(新政あいち)、下奥奈歩(共産)の現職3氏。



「現職のうち自民の鈴木孝昌氏は勇退の見通し。公明の渡会克明氏は(定年により)党本部で後継者へのバトンタッチが正式に決まった」。ベテラン豊橋市議の解説だ。

新たに挑戦するのが、今年4月までに名乗り出ている杉浦正和、中村竜彦の両豊橋市議。これに加えて坂柳氏が7月になって参戦を表明した。

「渡会後継も含めて、これで7氏。同市議はさらに解説する。」「立憲民主の候補者が浮上するのは必至だ。」

5人区には候補者を擁立するのは立憲の方針。立憲幹部が繰り返し明言している。女性候補の擁立を準備しているようだ。これで主な候補者が8人となる計算だ。新旧別では現職3、新人5。

自民(系)が4氏

注目は、自民(系)が丹羽、杉浦、中村、坂柳の4氏が「乱立」する点。「4人も乱立すれば票が分散。互いに食い合いをする」となりかねない。

「知名度や堅い支持基盤を持つ候補者数を定数から引けば、残る議席はわずか。これを自民系4と野党で奪い合うことになる。厳しい戦いになることは必至だ。」

「立憲が候補者を擁立すれば、野党サイドでも票の食い合いは必至。戦線はにわかに混沌としてくる。」

投票率は、低迷傾向。そんな中での「混沌」。大方の見方だ。

今後の動き次第では、秋ごろにも「候補者調整」が行われる局面も出るかもしれない、と予想する関係者もいる。しかし、すでに全員が走り始めている。「調整」は難しいだろう。